

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400031		
法人名	合同会社らんらん		
事業所名	グループホームらんらん		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字崎山128-4		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791400031-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、食事・入浴・排泄等日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立して生活を営むことができるように支援しています。 地域の行事(清掃作業・スポーツ大会等)に積極的に参加し、交流を図っており、地域行事や通院等の際に、地域の方から認知症についての相談や入所の相談を受ける機会が増えており、また、直接、ホームに来られて相談される方もおられます。入居者の家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れもいただく機会が増えており、地域とのつながりが広がってきております。 ホームの裏の土地をご厚意により無償で貸していただき、無農薬野菜づくりによって採れた野菜がホームの食卓で利用者に食され、好評を得ております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、その人らしさをモットーに利用者の残存機能の継続や引き出しながら日々の支援に取り組んでいる。職員も福祉職の経験者が多い。地域の理解と協力を得て事業運営を行い、地域住民の介護相談の担い手となっている。地域の一員として、清掃活動等に参加して事業所の周知を図っている。協力医の診療所医師も利用者の健康管理には協力的で、看取り実施の場合は往診を行うことを契約している。食事は3食事業所で調理している。事業所裏には畑もあり野菜等の育て方や調理方法を利用者から学ぶ事で回想法にもなっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『あなたの想いに気づき』『思いやりの心を持ち』『安心して暮らせる生活』の3つの理念に掲げ、月1回のミーティングで職員が共有できるように、復唱している。	理念は、開設時に作成、事業所内に掲示して、月1回の職員会議で唱和し、その人の為のケアではなく、その人の立場に立ってのケアについて、話し合い共有に努めている。事業所理念について、家族からも説明を求められることがあり、その都度説明して理念の周知に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、行事に積極的に参加している。(地域の清掃活動やスポーツ大会等)また、ホームでのクリスマス会に、地域の方々に参加を呼びかけ、老人会の方々が参加されている。※今年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、クリスマス会のご家族や地域の方々の参加を自粛していただいている。	コロナ禍で地域との関わりは難しくなっているが、散歩時に挨拶を交わしたり、野菜類の差し入れがある。定期的な清掃活動に職員2～3名が参加して地域の方と交流している。会費収めに公民館訪問時に、事務職員を通して地域の方の介護相談を受け、話を聴いたり、できる範囲でアドバイスや行政に伝えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで、公民館行事や通院時に地域の方から「認知症の相談」を受けることがあります。ホームへ直接来られる方もおられます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員のメンバーには、今帰仁村役場の職員や崎山区長、また、ホームの開設に当たって土地を譲っていただいたり、役場や地域住民等への働きかけに協力をいただいた方を地域の代表として加わっていただいております。地域の方々のホームに対する理解をいただくための力となってくださっている。	運営推進会議は、2月までは委員が参加しての開催でその後は中止と職員のみで開催している。職員のみ開催の会議録からは、事故、ヒヤリはほとんどの報告は確認できず、行政、推進委員に情報提供はしていない。外部評価、運営推進会議録は玄関で閲覧できるようになっている。	運営推進会議は、委員の方が事業運営を見守り、協力者として理解を得るうえで、コロナ禍でも継続して事業所の実情を伝える情報提供が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開催する際に、村の職員が会議に参加していただけるよう配慮していただいております。村の役場にいられた方々に、ホームの紹介等もしていただいております。ホームからも村へ、随時、ホームの状況をお伝えし、村の窓口相談にいられた方々にホームの状況等や紹介をしていただいております。協力体制を組んでいる。	村担当者とは電話で連絡している。身体的拘束等の適正化のための指針作成のアドバイスや新型コロナウイルス予防のためのマスクの寄贈がある。地域住民からの介護相談等も村担当者に伝えるなど、協力体制に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは、基本的には身体拘束は行わないということを重要事項説明書に記載している。また、ホームの身体拘束等適正化のための指針を作成し、職員一人一人が身体的・精神的被害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。	代表者、職員は禁止となる具体的な11の項目と言葉による拘束等も正しく理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。毎日、一人で出かける利用者を地域で見守り支援している。身体的拘束等の適正化のための対策検討委員会は職員のみで定期的に関催、職員研修はDVDを使用して実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームが利用者にとって安心と安全の場所であることを大切に考えており、利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者のご希望に沿った支援ができるように努めている。	職員は福祉職の経験者で、虐待防止について理解と周知している。知的障害者を雇用して、利用者とフレンドリーな関係であるが気になる言葉には、理解できるように注意、説明している。職員は高齢者虐待防止関連法についてDVDを使用して研修を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームを立ち上げる前から、権利擁護については学んできたが、今後も、職員会議等の場で職員と話し合いながら活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に当たっては、利用者様にホームの見学や試し入所していただき、利用者様の入所の確認をいただいた後に、重要事項説明書に沿って、利用者様やご家族様に十分な説明を行い、納得していただいたうえで、契約書にサイン(押印)していただき、入所していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様には、ご意見箱を常設して、ご意見・ご要望をお聴きしている。また、運営推進会議に利用者様及びご家族様の代表者として参加していただき、ホームの活動状況等の説明やご意見をお聴きする機会を設けている。利用者様が楽しみにされている、外出については、利用者様の希望を聴きながら計画を立て実施している。※(今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出は自粛している。1回、車でのドライブ(下車はしない)を実施した。)	家族に、利用者の状況報告を電話で行う時意見を聴いている。「戸外に出してほしい」の声がある。利用者からは、日々のケアの中で声かけし、聴いている。言葉や行動から利用者の思いに気づき「衣類等の保管する場所」がほしいのではと代表者に伝えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回以上開き、職員の意見や提案を聞く機会としている。	月1回の職員会議で意見等を聴く機会とし、新型コロナウイルス予防の為、空気清浄器を購入して欲しい等に反映している。利用者の想いをくみ取り、現在、「衣類等の保管庫」となる倉庫作りに向けて事業所後ろの土地を整備している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が、働きやすい職場を目指し、職員個々の「やりたいこと」の希望を聴き、話し合いを持って、職場環境の整備に努めている。	労働条件通知書を作成し職員は契約書を交わしている。毎月、職員の希望を聞いて勤務シフトを作成している。職員の個性を活かして適材適所で役割を持たせている。職員の健康診断は確認出来ず、3月に健康診断が予約されている。	健康診断の実施については、労働安全衛生法に義務付けられており、夜勤を定期的に行う介護職員は年2回の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者との関わり方で悩んだ時には、経験豊富な職員にいつでも相談できる状況・環境づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げるにあたり、管理者の研修等の受け入れをしていただいた。また、支援等についてのアドバイスをいただいております、サービスの向上に役立てています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に当たっては、家族による入所希望だけではなく、本人にも施設を直接見ていただき、必要ならば、体験入所も行いながら、入所していただいている。また、日常生活においても、本人の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めており、家族には出来るだけ面会に来ていただき、利用者の様子を見ていただきたいと思っている。面会の際に感じた事や、ご要望等を聴かせていただき、ご家族との信頼関係を築くように努めている。※(今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会も自粛していただく状況であり、残念)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所契約にあたり、本人と家族等には、要望等について話し合いを持つとともに、面会時等にも、本人や家族の要望を聴かせていただくことにより、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事(洗濯物をたたむ等)を、利用者に手伝っていただいている。また、利用者の持っている色々な知識等について、職員が教えていただくという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、いつでもいいので、面会に来て、利用者の様子を見ていただくことにより、利用者の心の安定を図り、安心して生活できるように、また、要望等を聴かせていただき、サービスの向上に努めたいので是非とも、面会に来ていただきたいとおねがいしている。 ※(今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため面会を自粛していただいております)(残念)		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所等との関係を大事にし、関係が途切れないように、職員が連絡を取り、面会に来ていただいたり、必要ならば職員の送迎により、関係が途切れないように支援につとめている。 ※(今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、面会を自粛していただいております)(残念)	本人、家族、アセスメント、日々の会話から地域社会との関係性の把握に努めている。本等が好きな方には職員が本やDVDを借りてきて提供している。家族の支援で美容室に継続して通う方もいる。若いころ住んでいた島の様子を聞いたりして話を広げている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型のため、利用者同士が知り合いであることも多く、会話の中で共通の話題等もあるので、そうした機会を捉えて、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が行えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所理由としては、本人が入院等により、家族の希望で退所されたケースであり、契約が終了してからも、入院先に面会に行き、本人にとっても喜ばれたことがあったが、必要に応じて、本人や家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努め、困難な場合には、本人や家族と話し合いのうえ、本人の本位が叶う様に努めている。	日々の生活の中で聴いたり、コロナ禍でマスクで口の動きが見えず、耳が遠い方にはボードを使っての把握や、1対1になる入浴支援時に話を聞いて把握に努めている。「家族に会いたい」「墓を見に行きたい」などの声が聞かれ、孫の写真や手紙を見せるなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等にお話を伺いながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との普段の会話の中で、一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者(ケアマネジャー)が介護計画を作成し、職員会議等で話し合いを持ち、情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画に長期目標、短期目標が設定され、計画の見直し等は、現在、家族、利用者の意向を聴き、居室担当職員の情報等も聞いて職員会議で検討して介護計画は作成している。モニタリングは3か月毎に実施している。職員が共有出来るよう計画作成担当者が、職員会議で説明しホルルのボードに掲示している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等について、業務日誌(個人別記載)に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、利用者代表や利用者家族の代表に出席していただき、ニーズの把握により、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加し、地域資源を利用して本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、また、事業所も地域資源の一つとして利用していただけるよう、事業所の行事(クリスマス会等)にも地域の方々に参加していただけるように努めています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(今帰仁診療所)への受診や利用者のかかりつけ医への受診を行っている。	利用前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診している。受診は家族対応で、受診時には情報を提供し、必要に応じて職員が受診対応や同行の支援をしている。全利用者、年に1回の特定健診を受けている。利用者全員、診療情報を参照できるカードに登録して、緊急時の受診に備えている。個別に受診時の記録を付けて、全職員が確認できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師の配置が無いため、地域の協力医療機関の意思や看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、家族と共に職員も面会等を行い、利用者が安心して治療できるように努めており、病院関係者とも連絡を取り合い、情報の共有による関係づくりを行っており、利用者の中には、病院からの紹介で入所された方もおられます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り)については、家族へは契約時の重要事項説明書にて説明はしているが、看護師の配置が無いので、緊急の場合には、近隣の医療機関に搬送するしかできないので、その辺を家族に説明し、他の施設への変更も含め、話し合いのうえ、方針を決定している。	看取りに関する指針を作成し、契約時に事業所の方針を説明している。現在二人の利用者が看取りを希望し同意をもらっている。地域の診療所が協力医で医師と看取り時の往診等の同意も得て、医療連携の契約書を交わしている。職員間でも看取りを受け入れることに前向きで、外部研修の内容を全職員で共有する勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、職員会議の際に、応急手当や初期対応の話し合いをしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策等については、職員会議の際に検討・確認している。また、避難訓練の計画・実施をしているが、利用者が高齢で足の不自由な方が多いので、普段の会話の中で、意識の向上を図っている。今帰仁村防災マップを掲示し、全職員に周知している。地域の防災訓練は実施していないという事であるが、非常時の協力体制等の構築をしていきたい。	年2回昼夜を想定した訓練を職員と利用者が一緒に行い、避難場所、避難経路を確認し、避難誘導がスムーズにできるように取り組んでいる。防災マップも事業所内に掲示して、職員間での周知も行っている。備蓄は4日分と卓上ガスコンロ等の準備もしている。期限切れ間際の食品は献立に取り入れ、災害時のメニュー作りに活かせるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。それぞれの部屋については、利用者のスペースということで、他者が勝手に部屋に入る事は禁止(利用者・職員共に共通認識の下で)している。また、言葉がけ等についても、配慮して対応している。	本人の気持や希望を大切に考え、本人の残存機能を維持できるように、小便器を新しく取り付けたり、トイレトペーパーを一回分ずつ切り、準備して自分でとれるように工夫したり、できることが増やせるように支援している。利用者の個人情報、事務所で鍵付きの棚に保管している。事業所外の死角になる場所に防犯のためのカメラを設置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見箱を設置して、いつでも本人の思いや希望の表明が出来るように努めている。外出先や食事等の希望については、利用者に聞く機会を持ち、計画の立案や実施をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間・就寝等については、本人の意思を大切にしつつ、健康状態等を常に把握し、十分な睡眠の確保が出来るようにしながら、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援しており、本人の希望により、美容院や理容院に送迎している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備するということはないが、メニューの希望を取り入れた食事を提供するようにしている。また、好みの食事が摂れるようにしている。	事業所で3食、職員の手作りで食事を提供している。事業所隣の畑で収穫した野菜や地域の人からの差入れの野菜を使うこともある。沖縄行事の料理や沖縄独特の野菜は、利用者から調理の仕方を教えてもらったり、下ごしらえや味見を一緒に行い、行事食で季節を感じながら食事を楽しむ取り組みをしている。誕生日には特別メニューとし、利用者の希望も取り入れて、ファーストフードなどを楽しむ支援もしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を心掛けています。(誤嚥が心配な方には、トロミやミキサー食の支援を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に気をかけ、声掛けや本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。(義歯の手入れや健康体操等) 利用者の歯科治療は、近隣の歯科医療機関で行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に失敗しても、「大丈夫だから」と伝え、失敗したらシャワー浴をしていただき、場合によっては職員が洗浄等に支援を行っている。また、オムツを使用されている方についても、本人の意思により、トイレに行けるように支援している。	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パット、紙おむつ類も本人に合わせて検討している。失敗してしまった場合でも、本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれないように配慮しながら対応している。ポータブルトイレを使わず、夜間も利用者の排泄のタイミングを把握し、トイレへの誘導を行い、トイレでの排泄が維持できる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所前からほとんどの方が便秘の為、必要な方については、医師と相談のうえ、服薬を行っている。また、水分を摂っていただくよう支援を行っているが、利用者の中には、味の付いた飲み物を好み、他の水分を摂りたがらない方もいるので、繰り返しの声掛けにより、水分を摂ってもらうように取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に設定しておらず、本人の希望でいつでも入浴できるようにしている。一時期、簡易の浴槽を設置した事があるが、利用者がシャワーのみで良いとのことで、安全面も考慮し、シャワーのみを使用している。シャワー浴は、職員の介助により、ほぼ毎日実施している。利用者の状態によっては、声掛けのみで、ご自身で入浴され見守りのみの方もいます。	個別の入浴支援を行っている。入浴は週3回となっているが、利用者の希望に応じて、毎日の入浴も可能で、入浴日の変更、入浴時間も利用者の負担にならないように配慮している。脱衣所は、季節に合わせて扇風機や暖房器具で対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の掃除や片付け等については、本人の許可の下で職員が行い、安心して気持ち良く眠れるように支援している。また、午睡を推奨しており、休息していただけるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院は、職員が付き添って行き、薬の受け取りにあては、職員が薬の目的等について医師や薬剤師から話を聞き、薬の管理を含め、服薬の支援を行っていたが、今年度より、基本的に通院はご家族で行っていただくこととしたが、ご家族で出来ない場合は、職員が対応するようにした。家族から、薬の目的等を引き継ぎ、薬の保管及び服薬の支援を行っている。	服薬に関するマニュアルは確認出来なかった。薬は事務所で管理し、利用者の薬の種類等を一覧表にして全職員が確認できるようにしている。薬の管理担当職員が1週間分、さらに1日分の薬を個々のケースに入れている。職員2人で名前を呼称確認し、利用者一人ずつ配薬している。飲み終えた薬袋は、服用したことを利用者本人も確認できるように一日保管している。	安全な服薬支援のためのマニュアルを作成し、職員間での共有が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々は外出が楽しみにされている方が多く、本人の希望等も聞きながら外出の機会を設定して、気分転換等の支援をしており、外出の際は外食の機会を設けて嗜好品を食す機会としていたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できずに、残念である。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の利用者も多く、本人が外に出たがらない方もいるが、外出を楽しみにされている方も多いため、外出の機会を設定したいが、感染症の関係で外出自粛となっているため、自身で散策をされている方もおられるが、出たがらない方にも声掛けし、職員付き添いでの散策を実施し、健康増進のための支援をしていきたい。	コロナ過の中でも利用者の希望を聞き、歩行が困難なケースでも車いすやウォーカー等を利用して近所の公園や売店まで散歩に出かけることができるように支援している。自宅が近くにある利用者は、家族の顔を見に行くために職員と一緒に出掛けたり、利用者一人一人に合わせた外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、本人の自己管理で所持していただいている。ホームでは、5千円を預かって、本人の希望する物の購入や通院時の際の経費としている。また、外出時に本人の希望の物を買われる際の経費に充てている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を使用されている方もいるが、必要に応じて、ホームの電話を使用していただけことも可能です。また、ご家族等から電話があれば、取り次ぐことも可能であるが、ほとんどは、職員がご家族の話を伝える事が多い。手紙については、本人に渡しています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、共有空間(ホール)に飾りつけ(クリスマスツリー・ひな人形・花等)を行っている。	共用スペースは、明るく、清潔感を感じられる。利用者が自宅のようにくつろぐことができるように、ソファがあり、利用者が安心して横になって過ごすことができる空間作りに工夫している。行事に合わせた飾りつけや、地域でとれた草花などを飾り、季節を楽しむことができるスペースをつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は、共有空間(ホール)で大型テレビ(65型)を見て過ごされている方が多いので、ライブラリーでDVDを借りて沖縄芝居等を観る機会を設けている。また、午前10時ごろから、カラオケ機器を使って、体操(ラジオ体操・ゆったり体操・パタカラ等)を行った後に10時茶としている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が自由に使えること(火器等危険な物の持ち込みは禁止)を基本としており、他の者(他の利用者・職員)が勝手に部屋に入る事を禁止(利用者・職員共通理解)しており、部屋の掃除等についても、職員が本人の許可を得て行っている。	自宅にいた時と少しでも同じ環境で過ごせるように、家庭的な雰囲気づくりの工夫をしている。自宅で使っていたマッサージチェアやお気に入りの家具や位牌等利用者にとって大切なものを持ち込まれている。利用者家族や孫の写真を飾ったり、利用者が落ち着いて居心地よく過ごせる居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自分の力で行う事(他の利用者に危険が及ぶようなことを除く)が出来る事については、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援したいと考えています。		

目標達成計画

作成日: 令和 3年 2月17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は、新型コロナ感染拡大防止のため、外部委員の参加による会議の開催が出来ないため、ホームの職員のみでの会議で実施してきましたが、会議録を外部委員の方々に情報提供をしていなかった。	新型コロナ感染拡大により、引き続き、外部委員欠席での会議となる見通しのため、会議録を外部委員の方々に情報提供するようにいたします。	新型コロナ感染拡大が収束し、外部委員の方々に参加していただき、会議が行えるようになるまでは、引き続き、職員のみでの会議として実施して行きますが、外部委員の方々には、会議録による情報提供を行っていきます。	2ヶ月
2	12	健康診断の実施については、年1回の実施を行っていますが、夜勤実施職員については、年2回の実施が義務付けられているが、年1回の実施にとどまっている。	夜勤実施職員の年2回の健康診断を実施する。	健康診断の指定病院は、北部医師会病院となっているが、2回のうちの1回は、ホームの協力医院である、今帰仁診療所での実施が出来るよう、調整する。	6ヶ月
3	47	利用者の薬の種類等の一覧表を作成し、全職員が確認できるようにしているが、安全な服薬支援のためのマニュアルがない。	安全な服薬支援のためのマニュアルの作成を行い、職員間での共有が出来るようにする。	服薬支援については、これまでも十分な注意を払ってきたが、より安全な服薬支援が行えるようにマニュアルを作成し、職員間で共有できるようにしていく。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。